

戦後80年

アジア学院がめざす平和



8月15日の「戦後80年を覚える集い」で思いを語る荒川校長

アジア学院の新たな平和宣言

荒川 治 校長

2025年、戦後80年という大きな節目を迎えるにあたり、アジア学院では新たに平和宣言を行うことを決意しました。

その背景には、学院の創立の原点があります。そこには、初代校長・高見敏弘の、日本によるアジア諸国への侵略に対する深い反省と贖罪の思いがありました。その精神を改めて心に刻み直すことが、今、必要だと感じたのです。

世界では依然として多くの地域で戦火が続いています。日本においても偏狭なナショナリズムや排外主義が広がり、軍事費の増強がますます進む一方で、戦争を直接知る世代が減り、戦争の記憶が急速に薄れつつあります。さらに、AIやドローンといった無人兵器の登場により、戦争への心理的ハードルが低くなっていることにも危機感を覚えます。

評議員の永田佳之先生（聖心女子大学教授）から「戦後80年を迎える今年、アジア学院こそが平和宣言を発信すべきである」と励ましをいただいたことも、大きな後押しとなりました。

8月15日には「戦後80年を覚える集い」を行い、学生やスタッフ、ボランティアがそれぞれの国や地域の視点から戦争の現実と平和への思いを語り合いました。「平和はどこから生まれる

のか」「内なる平和とは何か」を問い直し、グループで分かち合った意見をもとに平和宣言委員会を立ち上げました。宣言文は2007年に学院で行われた「土からの平和シンポジウム」で採択されたものを基に、新しい時代の課題と世界各国の学院コミュニティメンバーの声を反映して練り上げられました。

9月16日の創立記念日には、礼拝の中で「アジア学院平和宣言」戦後80年を迎えて」が全員の声で読み上げられました。礼拝後には、公園で歌や詩、踊りなどを通して平和を表現するイベントも行われました。今年は「食べもののからの平和」キャンペーンや、元日本軍捕虜との和解の活動が続ける恵子ホームズさんを迎えた講話など、平和を多角的に考える取り組みも続けてきました。

自然破壊と戦争は同じ根を持っており、真の平和は、自然と隣人、自分自身、そして神との和解から生まれます。日々の共同生活の中で、自らの内にある「戦争の原因」に気づき、土と共に生きる中で自分が自然の一部であることを経験し、いのちの源につながるとき、私たちは「土からの平和」を実現する者へと成長していくのではないのでしょうか。

2025 AR? Peace Declaration

アジア学院 平和宣言

—戦後80年を迎えて—

前 文

戦後80年の節目を迎えた2025年、アジア学院はここに改めて平和への決意を表明します。

戦争体験者や被爆者が年々少なくなっていく中、今を生きる者にとって戦争と核兵器の悲惨さを次世代に伝える責任はますます大きなものとなっています。2024年、日本原水爆被害者団体協議会（被団協）がノーベル平和賞を受賞したことは、そのことの重要性を象徴しています。また、ガザやウクライナをはじめとし、アジア学院の学生や卒業生の母国を含む世界各地で暴力と対立が続いているただ中であって、和解と平和文化を築くことは、私たちに与えられた緊急かつ重要な使命と感じています。

アジア学院がこれまで進めてきた、自然・隣人・自分自身・神との和解の追求、またそこから生まれた「土からの平和」という根源的な希望と願いをさらに力強く推し進めるために、以下の平和宣言を作り上げました。

歴史の過ちを忘れず、平和を脅かすあらゆる力に声をあげ続けます

戦後80年の時の流れは、過去を忘れてよい免罪符ではありません。記憶を継承し、歴史の痛みに真摯に向き合うことこそが、平和を築く基盤であると私たちは信じます。日本の侵略戦争と植民地支配は、アジアの人々に深い苦しみと破壊をもたらしました。数えきれない命が奪われ、多くの共同体が傷つきました。日本の教会もまた、戦争に強く反対する声をあげず、時にそれを正当化する役割を果たしたことを、私たちは謙虚に認め、深く悔い、二度と同じ過ちを繰り返さないことを誓います。

私たちは広島と長崎の惨禍を思い起こし、核兵器の廃絶を強く訴えます。核抑止力に基づく安全保障の論理は、真の平和をもたらすものではありません。すべてのいのちを脅かす核兵器に対し、私たちは明確に「ノー」を宣言します。

自由と正義、差別の克服に根ざした平和な社会を構築します

今日、世界は戦争と暴力の連鎖、核兵器の脅威、気候変動、食料不安、精神的断絶といった地球規模の危機に直面しています。しかし、私たちは自由と正義、差別の克服に根ざした社会を創り出す可能性を信じています。身体的・社会的属性に基づく差別を乗り越え、軍事力や武力による支配ではなく、調和・共生・協力が基盤と

なる世界を目指します。私たちは、平和は家庭から始まると考え、まず家庭において平和の器となることを重んじます。自らの内に、家庭に、地域社会全体に平和を築き、それを通して世界の平和と正義に取り組むのです。政治的排除、ジェンダーに基づく暴力、軍事化の圧力に直面しても、私たちは地域の現場で連帯の声をあげ続けます。平和構築、紛争解決、仲裁、非暴力コミュニケーションを推進し、人々が平和を人生の最優先事項に据えるよう働きかけます。また、新しい技術も平和のために用い、情報の自由で公正な流れを確保し、それを地域と個人レベルでの平和に役立てていきます。

地域社会に仕えるリーダーを育成し、共に平和の器となります

アジア学院は草の根のリーダーの育成を通じて、不平等や不正義、脆弱な地域社会の課題に取り組むことを誓います。土地や食料の権利、地域主導の発展を平和構築の柱とし、経済的不安定や気候変動の中で地域のレジリエンスや災害への備えを育みます。また、すべての人に全人的な教育の機会を提供し、身体的・精神的・霊的に健全な社会づくりに貢献します。さらに、アジア学院の価値観を世界的ネットワークを通じて共有することで、平和への貢献を広げます。

「土からの平和」を推進します

土を耕し、食べものをつくり、共に喜びをもって食卓を囲む営みは、すべてのいのちが互いに支え合って生きていることを教えてくれます。私たちは、自然生態系の一部として生かされていることを強く自覚し、すべての被造物と共に生きることを強く望みます。

自然を搾取し破壊する自己中心的なあり方は、いのちを脅かし、種の絶滅さえ招きます。戦争もまたいのちの尊厳を無視した自己中心的なあり方が原因です。自然破壊と戦争は同じ根を持つのです。だからこそ平和を実現する人は、自然、隣人、自分自身、そして神と和解することが必要不可欠です。

平和は自らの内から始まり、食卓に食べものがあるとき、地域社会において平和と幸福が可能なものとなります。種子の主権を守り、土を壊さずに食料を育むことは、平和と安全保障の根幹です。自然と調和した営みこそ、平和を育む確かな基盤を築きます。

アジア学院は、この「土からの平和」の種を蒔き、広げていくことを目指します。

結 び

平和は与えられるものではなく、日々の選択と実践を通して築かれるものです。私たちは建学の理念に導かれ、土から、共同体から、心の中から平和を創り出す道を歩み続けます。戦後 80 年という節目に、過去を悔い改め、未来に希望をつなぐために、ここに平和の誓いを新たにいたします。

文



トーマス・マシュー

1988年度卒業生（インド）
社会経済教育開発サービス
（SEEDSインディア）
事務局長



（写真左）被爆者・黒川万千代氏による初のインド訪問（1990年）



（写真右）IARF 米国支部の「平和と宗教間調和に関する感謝状」をダライラマより授与される。

✧ アジア学院で与えられた平和の使命

1988年にアジア学院で農村リーダーシップについて学んだ私は、翌年の1989年、SEEDS インディアというNGOを立ち上げました。貧しい人々、障がい者、ダリット（被差別民）、アディヴァシ（先住民）などの抑圧された人々に仕えるためです。

それに加えて、アジア学院をきっかけに、私が生涯をかけて取り組むようになったのが、平和活動です。もともとアジア学院に期待していたことは、日本の生活を体験し、母国インドの農村を率いるさまざまなスキルを学ぶことであり、平和は私にとって目の前にあるテーマではありませんでした。しかし、西日本研修旅行中、広島YMCAで広島と長崎の原爆の恐ろしい現実に関する映像を観て、被爆者の生の声を聴きました。被爆者の話は私の心に触れました。当時、私は核保有国インドの誇り高い国民であるという自尊心がありました（インドは1974年5月18日に最初の核実験を行いました）。その自尊心は広島で一瞬にして消え去り、私は広島と長崎からの平和のメッセージをどこにいても伝えようと決心しました。広島を見る機会がなかったら、核兵器の恐ろしい現実と、地球からすべての生き物を絶滅させる

その力について学ぶことはできませんでした。

卒業後の1990年8月、被爆者による初のインド訪問が実現しました。アジア学院の強力な支援者であったウィリアム・メンセンディーク牧師が、私の要請に応じて、元日本被団協事務局次長の黒川万千代氏を派遣してくださったのです。その旅は、コルカタでのマザー・テレサとの会合から始まりました。私たちはインドを広範囲に旅し、何千人もの学生、平和活動家と会い、報道機関のインタビューを受け、政治指導者や宗教指導者と会いました。

また、1998年5月のインドの核実験の実態に関するドキュメンタリーを制作しました。これは国際的に注目を集め、1999年のハーグ平和アピールで発表するよう招待されました。アジア学院創設メンバーの高見先生が、学院支援者のアイメルト・ヴァン氏を通じて私の渡航を支援してくれました。そこで私は5人のノーベル賞受賞者に会い、インドの核実験の恐ろしい実態を伝えました。その後、ピースボートや平和首長会議（2020ビジョンキャンペーン）に関わるようになりました。これらを通じて、1990年以降、インドを訪れた

被爆者は25人以上に上りました。私たちは原爆投下の写真1000袋（各25枚）を受け取り、インド、スリランカ、ネパールの教育機関や平和展に使用しました。これまでに約30万筆の平和署名を集め、国連に提出しました。

こうした活動の結果、私は世界初の宗教間協力NGOである「信教の自由国際協会（IARF）」の会長を務め、国連経済社会理事会（ECOSOC）、国連人権委員会、国際原子力機関（IAEA）などの機関との連携を支援する国連代表として活動してきました。アジア学院での生活が、私にとって初めての宗教間交流の場であったことを誇りに思います。

アジア学院は、私の内なる世界平和への情熱を燃え上がらせ、平和で公正な世界のためにたゆまぬ努力を続けるための火に変える力を与えてくれました。



トーマス・マシュー氏のSEEDSインディアでの活動については、アジア学院ウェブサイトまたはこちらからお読みいただけます。

寄付者御芳名

日々のご支援に心より感謝いたします!

集計
期間

2025年8月1日～2025年10月31日

(敬称略・順不同)

サポーター寄付・ 一般寄付

【北海道】井澤美恵子 宮崎善昭【青森県】木村幸子
【宮城県】根廻頼子【秋田県】大友武夫 田中真【山形県】須藤フミ
【福島県】杉原義雄 杉山雅英 松谷健司【茨城県】岩田朗 遠藤桂
小幡幸和 金谷喜一郎 小林徳朗 佐藤みちよ 角田ひろみ 成島良幸
百瀬孝子 渡部敬(教) 関東教区教会婦人会連合(教) 北海道教会
【栃木県】阿久津啓司 阿部真希子 新井秀 荒川治 荒川朋子
飯島恵子 池田桂子 井澤酪 石川貴之 石黒静子 植竹伸一 内田尚久 大浦智子 大谷雅代
大柳由紀子 小倉恭子 片桐洋史 川上聖子 川崎圭子 木沢宏美 吉川宗芳 君島佳弘
金智炫 木村裕子 栗原睦美 郷かして 小林克良 小堀朋子 小松原啓加 小山博子 近藤由実
坂入貴子 阪谷美樹 佐藤範明 沢谷千亜紀 塩水麻紀子 篠田快 杉山早苗 田上聡 田上利子
田上中 武智明美 田中淳子 中川哲夫 長瀬美香 永谷香 中野雄大 丹羽寿美 野田光子
長谷川恵子 林真智子 原田三恵子 潘桐旭 深谷百合子 福島永 古谷慶一 又木成美
松浦睦子 McCurley 里美 宮本悠子 村田榮 門馬久美子 八木湧子 八木沢淳 八塚敏枝
山内春子 山下崇 山田公平 吉村典子 渡邊茂子 渡部律子(教) 足利教会 家の教会しおん
(教) 氏家教会(教) 宇都宮上町教会(宗) 雲照寺(教) 塩谷一粒教会(カ) 厳律シスター会 那
須の聖母修道院(キ) 栃木教会(教) 那須塩原教会 那須友の会 那須ワイズメンズクラブ
(教) 西那須野教会 ヒヤマ種苗店(有) 星商事 星労務管理事務所(教) 益子教会
Minngos(教) 矢板教会(教) 四條町教会【群馬県】磯信子 上西正久 亀田瑠子
清水真由美 白井真澄 長谷川千恵 飛田成史・紀代美 野村英孝 増川理恵子
森村登世子【埼玉県】最上光宏・久美子 東治子 石田哲士 浮貝由美 梅澤智
大手明男・眞佐子 角田富美子 金刺裕美・康雄 河島清 菊池千代子 高橋秀之
武真人 田島悦子 千村雅信 星季一郎 細川敦子 三村美穂 三宅直子 柳原さつき 吉崎玲子
(教) 埼玉地区婦人部【千葉県】天野潤 植田栄基 海老澤浩 太田賢 小関光二・征子
佐久間健 佐藤朝子 佐藤伊一郎 佐藤豊美 関澤子 藤田朋子 矢口敏和・愛子 山本栄子
吉田新一・真理子【東京都】会津麻美子 阿部哲夫 栗谷しのぶ 井出誠彌 伊藤毅史
岩切勉 岩田達明 鶴崎創 江尻俊章 大塚綾 大橋祐治 角本邦久 片岡大造・仁枝
兼本和子 加納孝代 川上和彦 古川谷 木村護郎 クリストフ 久世陽子 倉敷英子 栗山昌子
黒田俊介 河野秋子 小林正子 小林元子 近藤真子 佐藤太郎 佐波吉男 佐柳信男 鈴木由美
高野美恵子 高橋馨 高橋理佳 竹野裕子 田代洋子 田中彰 角田秀明 円谷恵 土岐剛平 土岐美帆
殿塚婦美子 中野昭子 中山善和 並木浩一 賀川治樹 西秀樹 花岡尚子 東谷和代 広澤敏明
牧甫 増田泰子 松田浩道 松原真 三井田純子 宮澤信次 深山延曉 村木徳一 本山順子
山田美貴子 渡邊友香(教) 阿佐ヶ谷教会(有) インテレクト(教) 牛込弘方町教会
(学) 桜美林大学 在日大韓基督教会(教) 城西教会(キ) 東京告白教会(教) 代田教会
ジュニア科 東京霞ヶ関ライオンズクラブ 日本キリスト教協議会(教) 三崎町教会
みさき基金 明治学院中学校/東村山高等学校(株) ユニオンマイト(教) 早稲田教会
【神奈川県】清水留美子 阿部恵 荒井明子 石丸志賀子 今川信夫 岩澤裕基 大井花子
尾崎久美 笠置正民 勝然績雄 清永丈二 斎藤誠治 杉浦紗也 杉谷愛 鈴木智子 鈴木良子
鷺見八重子 高田耕多 東方久美子 中島菜々子 中本尚孝 鍋嶋那津子 成田晶子 橋本恵市
藤井さやか 本田忠行 村山宏志 持田由美子 山田早苗 山本俊正・Caludia Genung
Wand Yutong(学) フェリス女学院(カ) レンブリュリスチン修道院【新潟県】荒井真理 伊藤幸史
小淵康和 山田新人【富山県】酒井信治 マクニコル恵子【石川県】土橋喜人 喜田妙子【山梨県】土門晋
【長野県】青木栄作 石毛広雪 植松誠 甲藤ユリ 柄澤真理子 久保新一 塚田明人 由井和也
【岐阜県】宇野満【静岡県】橋本史郎 武井陽一 古橋克己・ふさ子 丸山信子 山下清二 山中忍
【愛知県】岩田佐和子【三重県】岩城健太 中西恵美【滋賀県】太田宜子 秀熊ともよ
【京都府】安達伸子 荒川研資・まな 石橋明也 上田祐未 櫻井鋭子 中神星乃
Hermansen Christian 細井順【大阪府】大本和子 金石文興 陳野友洋 野口栄治 林貞子
【兵庫県】植木多香子 大森直実 貝元利江 黒田喜久子 島田恒 森山秀敏 山本愛子 山本佳子

(学) 六甲学院中学校・高等学校【島根県】吉村恵【岡山県】岡崎優子
【広島県】高石孝子【山口県】片山由美子【福岡県】荒川彰 荒川淑 市津敏子【佐賀県】英語教
室もと【長崎県】山上嘉孝【沖縄県】酒匂様(公) 沖縄教区宮古聖ヤコブ教会【海外】Sibley
Ella Grottendieck Lena Otto Christian dela Paz Richelle アジア学院北米後援会

寄付金	8月	1,564,365円
実績状況	9月	3,834,527円
	10月	3,130,640円
寄付金合計		8,529,532円

寄付金がアジア学院に入金された日に
基づき掲載しております。
入金日は口座振替の場合はご決済の1ヶ月
後、クレジットカードの場合は2ヶ月後です。

書き損じハガキ

【北海道】名苗るみ 村本恵子【岩手県】八角晶子
【秋田県】大友武夫【山形県】渡部美佐子【福島県】佐川真理子
【栃木県】鮎瀬和子 荒川昌子 石川貴之 遠藤央 大浦智子
小野瀬美砂子 片桐洋史 吉川妙子 郡司いく子 小泉信三 駒場昌子
近藤由実 佐藤範明 塚本美砂子 土屋郁子 永野通夫 前波真一
森島俊子(教) 宇都宮上町教会 鹿沼東子ども食堂晴れるや(キ) 栃木教会 那須友の会
(特活) 民間稲作研究所【群馬県】磯信子(教) 渋川教会【埼玉県】井上久夫 尾野明子
小西さい子 塚越恵美子 福島道子 細川敦子【千葉県】南光望・圭子【東京都】金子圭子
木林淳子 木全由規 桑山道代 小林智子 新藤貴美子 田中彰 中里威・由美子 馬場元毅 横田桂子
横田理恵 和田祐子(教) 代田教会(福ル) 保谷教会【神奈川県】岩崎美佐子 尾崎久美 勝田雅栄
斉藤恵子 山田早苗【石川県】喜田妙子【長野県】西島博 森田矩子【静岡県】松村芳男
【愛知県】深谷ひろみ【京都府】千田悦子 長田操 Morimoto Hermansen Noriko
【兵庫県】垂井美子【広島県】加藤民子【鹿児島県】興水路子【海外】夏目香

一品寄付

【岩手県】田村育代 八角晶子【宮城県】エッセイの木
【茨城県】成島良幸【栃木県】鮎瀬和子 一戸茂子 大屋弘子
郡司いく子 小泉信三 古賀みちる 南部智恵子 湯澤正昭(キ) 宇
都宮松原教会 マ・メゾン 光星 紫塚児童クラブ
【群馬県】蓮見知美【埼玉県】井上久夫 鈴木祐子 渡辺栄一
【千葉県】太田春夫 佐藤伊一郎 山中美知子【東京都】木全由規 辻政子 対馬直美 日高好男・
啓子 三浦孝枝 山田真司 渡辺真理子(教) 中目黒教会 ナマケモノ倶楽部
【神奈川県】岡田良仁【石川県】喜田妙子【長野県】森田矩子【愛知県】深谷ひろみ
【京都府】石橋明也 千田悦子

(医) 医療法人(医社) 医療法人社団(学) 学校法人(カ) カトリック(株) 株式会社
(教) 日本基督教団(キ) 日本キリスト教会(公) 日本聖公会(公財) 公益財団法人
(公社) 公益社団法人(財) 財団法人(社) 社団法人(宗) 宗教法人(特活) 特定非営利活動法人
(パ同) 日本バプテスト同盟(福ル) 日本福音ルーテル教会(有) 有限会社

寄付金領収書について

口座振替・クレジットカードでご寄付頂いた場合、所得税法により、領収書の領収
日は、アジア学院に入金された日とさせていただきます。



#フードライフなひとコマ

食べものといのちを育む、アジア学院の日常



あり合わせのもので作る楽しさ

アジア学院では、料理を
する時にはどうしても制限
があります。「慣れている
スパイスがない」とか、「知
らない野菜がある」とか、
「健康のために食用油を使
いすぎないように」とか。私には、学生たちの
苦労がよくわかります。例えば唐辛子ペースト
を作る時に、私の国(ミャンマー)では唐辛子
とニンニクを同量入れて作っていました。でも
ここではニンニクはそんなに使えない、油も減
らさないといけない、辛さも控えめで、と言わ
れて、じゃあ茹でて、ニンジンとまぜて、と工
夫してみても。そうして出来上がったものはとて
も喜ばれ、モチベーションにつながりました。
時々「レシピ教えて」と言われるけれど、「あ
るもの使ったから、レシピなんてないよ。次は
違う味になるかもね」なんて言っています。

文



ティ・ティ・ウィン
フードライフ課 FEAST (給食・食育)

BULLETIN BOARD
事務局よりお知らせ

このクリスマス、世界の農村コミュニティに平和と希望の光を。
あなたの想いを、次のリーダーへ託してください。

寄付の方法



その1 払込票

同封チラシ下部の払込票
にて郵便局よりお振り込
みください。

その2 クレジットカード

左のQRコード、または
アジア学院特設サイト
よりご寄付ください。



その3 銀行振込

※ゆうちょ銀行も
ご利用いただけます。

銀行：足利銀行 西那須野支店
口座：普通 0112403
名義：学校法人アジア学院 理事長 山本俊正

アジア学院
フレンズデー

1/17（土） 10:00 - 15:00



会場 アジア学院
卒業生トークセッション、
ソリークライミング体験、
大日向マルシェも同時開催！

第53回 卒業式

12/13（土） 13:30 ~



学院での学びを活かし、地域の人々に仕える
学生たちの門出を共にお祝いください。
どなたでもご参加いただけます。

会場 アジア学院コイノニア食堂
送迎 那須塩原駅発 12:30 アジア学院発 15:30, 16:30



2025年度 長期ボランティア募集

多文化コミュニティで農的な暮らしをしてみませんか？ 農場、調理、事務など、様々な活躍の場があります。

期間：3ヶ月～1年（9ヶ月以上の方を優先します）
開始時期：3月後半を推奨（それ以外の時期にも随時募集）
応募〆切：ボランティア開始希望日の1ヶ月前
応募方法はウェブサイトの「長期ボランティア」ページを
ご覧ください。

2025年度 日本人学生募集

世界と繋がる”コミュニティ・リーダー”になろう！
アジア、アフリカ、途上国のリーダーたちと学ぶ
9ヶ月間の集中研修。

願書受付期間 10月～2月
応募方法はウェブサイトの
「日本人学生募集」ページを
ご覧ください。



Peace from Food 食べものからの平和キャンペーン お礼とご報告

from
Food
(6月～9月)



アジア学院が大切にしている「食べもの」という身近なテーマから、
多くの皆さまと共に平和について、考え、分かち合う時間を持つ
ことができました。皆さまの温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

寄付総額：172,000円（マンスリーサポーターの場合、初回のみ算入）
新規マンスリーサポーター：18人
ステッカー「あなたにとって食べものとは？」配布数：約1,500枚



ステッカーを持って撮影とその写真群（壁面）

お礼状・領収書発行時期について

本年1月以降のご寄付のお礼状兼領収書は、原則として来年1月にまとめて発行いたします。
1月を待たずに領収書を必要とされる方は、通信欄またはsupport@ari.ac.jpにてその旨をお知らせください。